

令和7年度 第2回千葉県博物館協議会 議事要旨

日時：令和7年10月31日（金） 午後1時30分～4時00分

会場：千葉県立現代産業科学館 会議室

出席者：委 員 高橋委員（議長）、関沢委員、鴻野委員、細矢委員、門脇委員

【オンライン】布施委員

博 物 館 美 術 館：貝塚館長、高山副館長、立和名普及課長

中 央 博 物 館：四柳館長

現代産業科学館：松田館長、植野副館長、竹内普及課長、小笠原学芸課長、
葭葉上席研究員

関宿城博物館：小田島学芸課長

房 総 の む ら：西原館長、鎌形副館長兼事業課長

文化振興課 山口副参事兼室長、小野主幹、宮川副主査、鈴木技師

事 務 局 猪野企画調整課長、監物上席研究員（中央博物館）

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿、座席表
- 3) 議事資料

1 開会【事務局】：委員10名のうち6名の出席により会議成立（うち1名オンライン）

2 あいさつ【現代産業科学館：松田館長】

3 出席委員紹介

3 出席職員紹介

4 議事（別紙参照）【議長：高橋委員】

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

【議　　事】

(1) 常設展及び企画展の視察及び講評（県立現代産業科学館）

県立現代産業科学館の常設展及び令和7年度企画展「うみ・千葉めぐり～魅力あふれる海の仕事～」を、委員が視察し、意見交換を行った。

○高橋議長：委員のみなさまには、実際に展示を見ていただき、今後の博物館の運営に参考になるようなご意見等をいただきたい。特に、博物館をどのように活用できるのかという視点をキーワードとして、それぞれの専門的な立場からのご意見をお願いしたい。

○高橋議長：「現代産業の歴史」コーナーにQRコードでの解説がついていて、工夫が見られ、良いと思った。これは他のコーナーにもあるのか？文字だけでなく音で聞いた方が、ポイントがよくわかるので良い。

→現代産業科学館：「現代産業の歴史」コーナーの主な展示に設置している。

○細矢委員：音声の解説は2倍速でも聞くことができるようになっており、工夫されていて良い。サイエンスショーは職員がやっているのか？ボランティア等が担当しているのか？

→現代産業科学館：放電実験室、ステージなどでのサイエンスショー・解説は、会計年度任用職員が担当している。小中学校の校長経験者が多いので説明がうまい。

○細矢委員：体験型の展示が多いので、壊れることもあると思うが、メンテナンスの苦労について、いかがか。

→現代産業科学館：子供は大人が想像しない使い方をして壊すことがあるが、壊れやすい箇所は経験から把握している。程度によって自分で直せるものは直すし、修理に出すこともある。

○鴻野委員：3回目の訪問だが、毎回、家族連れや団体など様々な子供が来館しており、機械の体験をしたり、実験シアターで笑っていたり、小さい時から科学に親しむことが大きな糧になっていると感じる。この会議の前に早めに来て見学をしたが、解説員の方の親切な案内が良かった。調整中のものがいくつか見られ、予算や人手に苦労していることも伺えた。放電実験室は日本に数館しかないとのことだが、そのような貴重な展示がこの町にあることが、子供たちの成長になると感じた。

○関沢委員：以前見学した時は宇宙食の企画展を行っており、先端的な事柄をテーマとして感銘を受けた。今回は海の仕事というユニークな観点での展示で、解説を聞くことでより理解が深まった。子供たちにとっても、働くということに興味を持っているので、将来につながる良い展示だと感じた。

もう一点、「先端技術への招待」コーナーではスーパーコンピュータ「京」やこれからのA I時代に向けて必要な情報基盤、また、DNAやノーベル賞を受賞した梶田隆章教授の紹介の展示等があった。このような先端技術への、まさに「招待」という展示は、目のつけどころが良いと思った。

学術の世界でもA Iの時代になっていくと言われており、日本は世界に対して遅れているので追いつき、挽回していくという大きな流れがある。その中で、子供の頃からこのような先端的な事象に

触れているのと、まったく何も知らないのとでは、学校の授業で習ったときに違うのではないかと思った。

○門脇委員：初めて来館したが、千葉県内の小学生はマストで来た方が良いと感じた。

(2) 多様な主体との連携施策について

資料1、2及び補足資料に沿って、「千葉県立博物館・美術館の連携」については中央博物館館長から、各館の取り組みについては各館から説明を行った。

【千葉県立博物館・美術館の連携について】

○高橋議長：「千葉学講座」は、今年度は現代産業科学館でも開催することだが、会場はどのような指針で選んでいるのか？

→中央博物館：中央博物館だけでなく会場を拡げるということで、周辺人口も踏まえて、今回は現代産業科学館でも開催する。また、話の内容もバラバラではなく、同じテーマに沿って、各館の研究員の切り口で県民向けに講演することに留意した。今回の取り組みをもとに、今後もより良い実施方法を検討していきたい。

○高橋議長：今年度1回目の講座のテーマ（房総の歴史）は、必ずしも開催館（現代産業科学館）と関係ないものとなっているが、他館で宣伝すれば効果があるのではないかと思うので、どのような工夫も是非お願いしたい。

○細矢委員：県立美術館・博物館の連携が良い形で進行していると思う。「千葉学講座」という名称は秀逸で、内容をとらえたものだと思う。いろいろな形でつながっていくことが求められていると思うので、この調子で頑張っていただきたい。

○高橋議長：県立美術館のデュッセルドルフとの連携と、中央博物館との繋がりについてもう少し説明をしてほしい。

→県立美術館：千葉県とドイツのデュッセルドルフが、昨年度からアーティスト交換という事業を開始した。この一環で、今年は県立美術館にて、写真とドローイングを扱う若手アーティストを受け入れることとなっており、2か月の滞在中に成果展を行う予定である。渡航前から繰り返しオンラインミーティングを行ってきた中で、当該アーティストが中央博物館分館海の博物館と国立歴史民俗博物館に関心を示したので、連携していることもあり、視察先として予定している。

→高橋議長：成果も中央博物館に残るのか？

→県立美術館：作品にどう反映するのかは、成果展の作品が出来るまでわからないので、楽しみにしているところ。

○細矢委員：国立科学博物館（以下、「科博」）にて、有名な写真家の写真展を行ったことがある。その際に、科博の研究員がそこから発想を飛躍させて解説をするということを行った。まったく違う成果の見せ方を、それぞれの博物館で違う切り口で行えたら、連携という意味でも面白いのではないか。

→県立美術館：県立美術館・博物館の連携強化の中で、若手学芸員の交流を計画している。成果

展の開催中にそれを行い、何か生まれると良いと思っている。

○鴻野委員：瀬戸内国際芸術祭や大地の芸術祭などの機会に、アーティストを地元の博物館や美術館に案内することがあった。その方の関心のあると思われる所にお連れするのだが、それ以外にも、そこで見た意外なものにインスピレーションを得ることがある。今回の訪問でも、作品に反映されることを楽しみにしている。

【各館の多様な主体との連携施策について】

○細矢委員：県立美術館に伺いたい。小さい子供にとって、美術館は敷居が高いように思うが、株式会社ZOZOと連携したワークショップは具体的にどのようなことを行ったのか？

→県立美術館：西千葉に本社があるZOZOは社会貢献に力を入れており、専属スタッフも多く、デザイナーも巻き込んで事業を行っている。これを受け、お互いのコレクションを混ぜ合わせた展覧会を行った。展覧会の会期中に、昨年度はZOZOが商品化にかかわっているアーティストによるワークショップを3回実施したが、今年はZOZOからノウハウをもらいながら美術館スタッフとボランティアがZOZOの古着を使ったバッグ作りのワークショップを行った。参加者に対して、ボランティアが作り方のアドバイスを行うというもので、子供でも大人でも楽しめた。

子供の敷居を低くする取り組みとしては、「ぐるぐるアート夏休み」がある。さまざまな楽しみ方をまんべんなく盛り合わせたプログラムである。

また、資料に載っているので補足するが、「満月夏祭り」は近隣店舗20軒以上に出店してもらい実施した屋台のお祭りである。満月の8月9日に実施した。家族連れが多く参加しており、そのすべてが展覧会を見るわけではないが、美術館に親しんでいただくことができたのではないかと考えている。

○布施委員：1点目は、美術館の夏祭りについて、地域の飲食店との連携をしているとのことだが、この視点は重要だと思う。日頃の地域との連携という観点で、大きな事業とかイベント以外の、バックヤード的な繋がりのある事例があれば教えてほしい。

2点目は、県立博物館同士の連携について、今後の参考としてコメントしたい。一見、異業種に見えるところとの連携も面白いと思った。例えば、アートと産業であれば、缶詰に描かれた千葉県の海の魚をテーマとして、海の博物館と美術館が連携して行う等、マニア心をくすぐるような新しい取り組みを、職員同士でアイディアを出し合ってみたら面白いのではないかという感想を持った。

→中央博物館：日常的というわけではないが、夏の特別展が食文化に重きを置いた展示であったので、周辺の海鮮を扱う飲食店にチラシやポスターを配って、海鮮に興味のあるお客様に周知することを行った。

2点目については、分館海の博物館では、現在、海のアート展として、海藻標本をアートに見立てて展示することを行っている。年度当初の計画になかった展示で、博物館のボランティアであり、アーティストとして活躍している方が企画して実施した。違う視点から見るとこういうことができるのか、という展示となっており、今後も行ってみたいと思った。

→現代産業科学館：「市川こども文化ステーション」という地元のNPO法人と連携し、「ミニいち

かわ2025」というイベントを行い、子供たちに街づくりを体験してもらった。市長になりましたり、売買を経験したりするものである。2日間で1,460名程度の参加があった。

また、地元飲食店等という話があつたが、毎年3月に商工会議所と連携した企画を行っている。商工会議所には飲食店も含まれる。1日だけで、すべてが入館するわけではないが、1万人程度の参加があるイベントである。

→関宿城博物館：「謎解きクイズラリー」の協賛店舗は、個人経営の牧場、洋菓子店、せんべい屋さんなどとも連携して特典の提供等をしてもらっている。

→布施委員：多様な取り組みを行つていて素晴らしいと思う。年に数回、楽しみにして行くことができる博物館や美術館という意味合いと、日頃から敷居の低いご近所付き合いができる博物館や美術館といった両方の視点が混ざるような取り組みを皆さん工夫されている姿がよくわかつた。

○鴻野委員：音楽に関する取り組みの紹介があつたが、映画はいかがか？展示と関連するアートフィルムの上映会を行つた際には、チケットがすぐに売り切れとなり、普段は博物館に行かない層が参加していたように思う。千葉県立図書館が主催する無料の映画上映会も、地元の住民が多く参加していた。

また、スポーツとの関連も勉強となつた。美術館の集客を検討していたときに、自転車・バイクでツーリングをする方は停める場所があるということで、美術館に立ち寄ることがあると聞いた。

○県立美術館：今回の地域との連携という趣旨からは少しづれるが、美術館にとって最大の連携は他の美術館との特別展の共同開催である。お客様に見ごたえのある展示会を準備するには、数千万円程度のイニシャルコストを用意する必要があるが、共通経費を数館で出し合えば大きな額になる。ところが、入館料は、千葉県は1,000円までと決められており、連携する他館との差が生じることがあり、やりづらさがある。連携をよりやりやすくする環境づくりが重要と思っているが、そのような壁を乗り越えながらやっていこうと考えているところ。

○高橋議長：連携についてうまく進めていただいていると思うが、一方で、現場の方は苦労されているのではないかと思う。ノウハウの共有や、いわゆるSD（スタッフ・ディベロップメント；職員の資質向上・能力開発）なども考えたら良いと思った。

以上、議事終了